

事務事業名		都市下水路災害復旧事業			☒ 実施計画掲載事業		☐ 合併建設計画掲載事業				
政策体系	政策名	02 自然豊かな環境の保全と創造			事業期間		予算科目				
	施策名	04 良好な河川・湾環境の保全					会計	款	項	目	事業
	基本事業名	01 公共下水道等の整備					13	03	01	03	00
根拠法令		下水道法、大船渡市下水道条例			☐ 単年度のみ ☐ 単年度繰返 (開始 年度～) ☒ 期間限定複数年度 【計画期間】 平成24 年度 ～ 平成26 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入						
所属	部課名	都市整備部下水道事業所									
	課長名	千葉 譲									
	係 名	建設係	電話	0192-27-3111							
	担当者	熊井 勝幸	内線	198							
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)					全体計画(※期間限定複数年度のみ)						
H23.3.11発生の東日本大震災により、都市下水路が約0.9m～1.0m沈下した。 このことにより、満潮時や大潮時に水路を越流していることから、沈下分を嵩上げし、流下機能の復旧をする。 L=730.0m					総投入量 (千円)	事業費	財源内訳	国庫支出金	200,355		
								都道府県支出金			
								地方債	4,700		
								その他	47,781		
								事業費計 (A)	252,836		
								人件費			
								人件費計 (B)	6,240		
トータルコスト(A)+(B)								259,076			

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		(5) 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
① 手段(主な活動)		名称	
前年度実績(前年度に行った主な活動)		単位	
復旧工事発注(繰越・現年工事)		ア	復旧工事・委託業務の発注件数
		イ	
		ウ	
今年度計画(今年度に計画している主な活動)			
復旧工事完了			
(2) 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等		(6) 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
新田都市下水路		名称	
		単位	
		カ	復旧延長
		キ	
		ク	
(3) 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		(7) 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
被災前の流下機能に戻す。		名称	
		単位	
		サ	復旧工事の進捗率
		シ	
		ス	
(4) 結果(基本事業の意図: 上位の基本事業にどのように貢献するのか)			
適正な雨水処理が可能となり、都市浸水などの防止が図られる。			

(2) 総事業費・指標等の推移		年度	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(目標)	27年度(目標)	28年度(目標)
投入量	事業費	単位						
		千円						
事業費	国庫支出金	千円		3,655	98,200	98,500		
	都道府県支出金	千円						
	地方債	千円		4,700				
	その他	千円		18,981		28,800		
	一般財源	千円						
	事業費計(A)	千円	0	27,336	98,200	127,300	0	0
	人件費	人		2	2	2		
人件費	延べ業務時間	時間		480	600	480		
	人件費計(B)	千円	0	1,920	2,400	1,920	0	0
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0	29,256	100,600	129,220	0	0
(5) 活動指標		件		1	2	2		
(6) 対象指標	ア							
	イ							
	ウ							
(6) 対象指標	カ	m		730	730	730		
	キ							
	ク							
(7) 成果指標	サ	%		20	40	100		
	シ							
	ス							

事務事業ID	1471	事務事業名	都市下水路災害復旧事業
--------	------	-------	-------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
平成23年3月11日発生の東日本大震災の津波及び地震により壊滅的被害を受けたため、その復旧を図る必要が生じた。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？
・被害の甚大さにより、国庫負担率が100/100となり、市の負担が大きく軽減された。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
意見・要望等は特にない。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】⇒ 新田都市下水路の復旧により、雨水処理が適切に行われ、都市浸水の防止が図られることから、自然豊かな環境の保全と創造につながる。
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】⇒ 下水道法により、施設の設置、改築、修繕、維持管理は市町村が行うものとされており妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】⇒ 震災により流下機能を失った都市下水路を対象とし、機能の復旧を図ることを意図とした災害復旧事業であり、対象・意図の限定・追加等、見直しの余地はない。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】⇒ 公共土木施設災害復旧事業国庫負担法に基づく原形復旧事業であり、成果の向上余地はない。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】⇒ 雨水排水が行えず、宅地や道路が浸水することにより、市民生活に重大な支障をきたすことになる。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある ⇒ (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】⇒ 国の災害復旧負担金を財源としており、財政上他の選択肢はない。 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】⇒
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 国の災害査定を受けた原形復旧にかかる必要最低限の事業費である。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 設計業務等はコンサルタントに委託している。また、工事の発注に関わる設計・積算・監督・住民対応等は、発注者としての専門性を有する業務であり、削減することはできない。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】⇒ 大船渡町、盛町地区の広い範囲の雨水処理を行う下水路であり、一部の受益者に偏っているものでない。

事務事業ID	1471	事務事業名	都市下水路災害復旧事業
--------	------	-------	-------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること)		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																					
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	特になし																						
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は他と重複不可)		(4) 改革・改善による期待成果																					
☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 特になし		左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 特になし																							

4 事務事業の2次評価結果

(職 名) ※原則として施策の主管課長	(氏 名)
2次評価者	下水道事業所 千葉 譲

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合																							
①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている ②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)																							
(2) 2次評価者としての評価結果		(3) 評価結果の根拠と理由																					
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり		被災した都市下水路の機能回復を図るため、有利な財源を確保しながら適切に事務執行がなされている。																					
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は他と重複不可)		(5) 改革・改善による期待成果																					
☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 新田都市下水路の機能回復を図るため継続して事業を実施する。		左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
